

## 目標達成計画

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画の主役は利用者本人であり、普段の生活の課題を解決しつつ、その人らしく暮らすための大切な指針となるものである。作成にあたり利用者・家族の意向確認は行っているが、介護計画は家族にのみ説明されている状況であった。今後は、利用者自身が生活の中で目標を持ちながら、より主体的に充実した暮らしが送れるよう、利用者に対しても介護計画の内容を分かりやすく説明することが望まれる。	利用者自身が生活の中で目標を持ちながら、より主体的に充実した暮らしが送れるよう、利用者に対しても介護計画の内容を分かりやすく説明する。	介護計画書を作成したら、利用者本人に内容を分かりやすく説明する。	2ヶ月
2	4	運営推進会議の参加メンバーには利用者が含まれるが、書面での開催になっていることもあり、利用者の参画がなされていない状況である。今後は、利用者に運営推進会議が行われたことや、話し合われた内容等を分かりやすく説明し、利用者からの意見や要望を積極的に聴き取り、サービス向上に活かしていくことが望まれる。	今後は、利用者に運営推進会議が行われたことや、話し合われた内容等を分かりやすく説明し、利用者からの意見や要望を積極的に聴き取り、サービス向上に活かしていく。	運営推進会議が行われたら、話し合われた内容等を利用者に分かりやすく説明し、意見や要望を聴き取る。聴き取った意見や要望をふまえより良いサービスにつながるようミーティング等で話し合う。	3ヶ月
3	1	理念は、事業所が目指すサービス提供のあり方を示したものであり、常に立ち戻る根本的な考え方である。理念の周知や浸透だけにとどまらず、年に1回でも振り返りの機会を持ち、理念がケアに反映されているかを職員間で話し合い、確認することが望まれる。	理念の周知や浸透だけにとどまらず、年度末に振り返りの機会を持ち、理念がケアに反映されているかを職員間で話し合い、確認する。	年度末に、理念がケアに反映されていたか、ミーティング等で振り返り話し合う。	6ヶ月
4	6	職員はチェックシートを活用して自己の振り返りを行い、ミーティングで話し合い対応策を見いだして取り組んでいる。今後はその対応策の有効性について評価する機会を持ち、更なる取り組みに期待したい。	不適切ケアについての対応策の有効性について評価する機会を持ち、更なる取り組みをしていく。	3ヶ月に1回の委員会で、前回に話し合った対応策の有効性について評価し、不適切ケアをなくすよう取り組む。	6ヶ月